

## 論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 1092 号	氏名	井手 昇太郎
学位審査委員		主 査	西田 教行
		副 査	森内 浩幸
		副 査	永安 武
論文審査の結果の要旨			
1. 研究目的の評価			
本研究は、長崎県における肺非結核性抗酸菌症の疫学および臨床的特徴を明らかにすることにより、そのリスク因子や予後不良因子を検索することを目的としており、研究目的として十分に妥当である。			
2. 研究手法に関する評価			
2001 年 1 月から 2010 年 2 月までに長崎県下の 11 病院を受診し、肺非結核性抗酸菌症と確定診断された症例について、分離菌、画像病型、居住地域、患者背景などについて、後方視的に解析しており、研究手法も妥当である。			
3. 解析・考察の評価			
11 病院で 975 例の肺非結核性抗酸菌症と診断された患者について解析し、罹患率は 10.1/10 万人に達していると推定している。原因菌は長崎県全体では <i>Mycobacterium intracellulare</i> が 44.3%と最多で、 <i>M. avium</i> 42.6%、 <i>M. abscessus</i> 3.1%だが、地域差があり、島原地区では <i>M. intracellulare</i> が 77.5%と高率であることがわかった。975 例のうち 205 例で 1 年以上経過を追跡でき、1 年後の予後について解析したところ、高齢者・低体重・呼吸器基礎疾患あり・線維空洞型が病状増悪のリスク因子であることがわかり、これらの患者背景は治療導入の判断に有用な情報と考えられる。			
以上のように本論文は肺非結核性抗酸菌症の疫学および臨床像の解明に大きく寄与するものであり、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。			